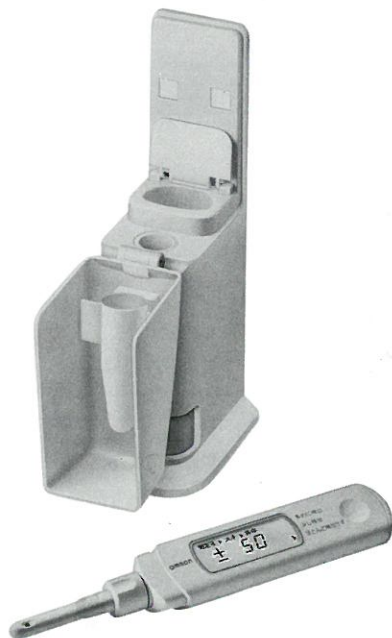


オムロンバイオ尿糖チェッカ HER-111

- 尿をかけるだけの簡単測定
- 約6秒の高速測定
- デジタル表示で見やすい測定結果
- くりかえし使用可能
- 尿中の糖(ブドウ糖)のみに反応



⚠ 警告

バイオ尿糖チェッカ HER-111は尿中の糖(ブドウ糖)を検出するものであり、病気の専門的な診断を行うものではありません。本器の測定結果でインスリン注射量、経口剤などの処方調節をしないでください。必ず、専門の医師の指導に従ってください。

- お買い上げいただきましてありがとうございます。
- お使いになる前にこの取扱説明書の「安全上のご注意」を必ずお読みのうえ、正しくお使いください。
- 保証書を兼ねていますので、紛失しないようにしてください。

取扱説明書

も く じ

安全上のご注意	1	
尿糖値と血糖値との違い	5	
バイオ尿糖チェッカとは	6	
商品の特長	7	
商品の構成(各部の名称)	8	
使 い 方	組み立て方	9
	測定のしかた	13
お手入れのしかた	16	
おかしいな?と思ったら	18	
ブザーについて	21	
別売品／仕様	23	
お問い合わせ	24	
保証規定・品質保証書	25	

※バイオ尿糖チェッカ HER-111をはじめてご使用になる場合は、別売品の専用センサセット HER-111-SENSORが必要です。

1 安全上のご注意

- ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので必ず守ってください。
- 表示と意味は次のようになっています。

警告サイン	内 容
 警告	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。
 注意	誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり物的損害の発生が想定される内容を示します。

* 物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットに関わる拡大損害を示します。

図記号の例	
	△記号は注意(警告を含む)を示します。 具体的な注意内容は、△の中や近くに文章や絵で示します。 左図の場合は“破裂注意”を示します。
	○記号は禁止(してはいけないこと)を示します。 具体的な内容は、○の中や近くに文章や絵で示します。 左図の場合は、“一般的な禁止”を示します。
	●記号は強制(必ず守ること)を示します。 具体的な強制内容は、●の中や近くに文章や絵で示します。 左図の場合は、“一般的な強制”を示します。

△ 警告	
1. 本器の測定結果でインスリン注射量、経口剤などの処方調節をしないでください。 必ず専門の医師の指導に従ってください。 ●病気が悪化する恐れがあります。	 
2. 電池を乳幼児の手の届くところに置かないでください。 ●飲み込む恐れがあります。万一、飲み込んだ場合はただちに医師にご相談ください。	 

2

△ 注意

1. センサの検出部を指、綿棒、ティッシュなどで直接、拭かないでください。
●センサが故障して正しい測定ができなくなります。



2. センサの検出部を触ったり、針のような先の尖ったもので突いたりしないでください。
●センサが故障して正しい測定ができなくなります。



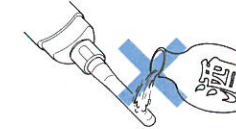
3. 保存液、基準液に違う液体や古い保存液、基準液を混ぜないでください。
●センサが故障して正しい測定ができなくなります。



4. 指定以外の液(水道水や市販の薬液など)を保存液や基準液のかわりに使用しないでください。
●センサが故障して正しい測定ができなくなります。



5. 本器を尿糖測定以外の目的で使用しないでください。
●事故やトラブルの原因となります。



6. 保存液や基準液を飲んだり、乾燥剤(シリカゲル)を食べたりしないでください。
●おなかをこわすことがあります。



7. 電池を火の中に投げ込まないでください。
●破裂する恐れがあります。



取り扱い上の注意

測定上の注意

1. 温度が極端に高い所や低い所では測定しないでください。
●正しい測定ができなくなります。



3 安全上のご注意

4

測定上のご注意

2.尿をカップにとる場合は、必ず採尿直後に測定してください。

●尿の温度が下がり、正しい測定ができなくなります。



3.尿をカップにとる場合は、センサの検出部を尿につけてかきまぜながら測定してください。

●正しい測定ができなくなります。



保管上のご注意

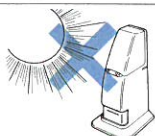
1.本体や保管ケース、センサ、保存液、基準液などを乳幼児の手の届くところに置かないでください。

●事故やトラブルの原因になります。



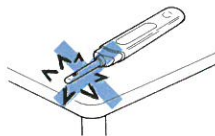
2.本体や保管ケース、センサ、保存液、基準液などを直射日光があたる所や高温になる所に置かないでください。

●故障して正しい測定ができなくなります。



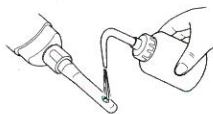
3.センサを保存液から出して放置しないでください。

●センサが故障して正しい測定ができなくなります。



4.測定後は必ずセンサを水(水道水)で洗浄した後、保管ケースに収納してください。

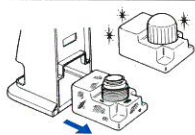
●センサが故障して正しい測定ができなくなります。



お手入れの注意

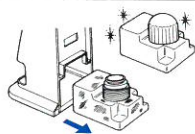
1.センサを交換したときは、保存液、基準液を新しいものとボトルごと交換してください。

●保存液や基準液が古くなると、正しい測定ができなくなります。



2.保存液に尿が入ったり、汚れた場合は必ず、新しいものとボトルごと交換してください。

●保存液が汚れると、正しい測定ができなくなります。



お願い

故障やトラブルを防ぐため次の事項を守ってください。

1.ぬれた手で電池や電池カバーを持たないでください。



2.指定された電池(リチウム電池 CR2032)以外の電池を使用しないでください。



3.本体を水につけたり、丸洗いをしないでください。



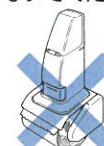
4.本体、センサ、保管ケースをアルコール、ベンジン、シンナーなどで拭かないでください。



5.本体やセンサ、保管ケースに強いショックを与えたり、落としたりしないでください。



6.保管ケースを不安定な所に置かないでください。



7.本体やセンサ、保管ケース、保存液、基準液を凍るような所に保管しないでください。



8.本体やセンサを分解しないでください。



特にセンサの故障を防ぐために次の事項を守ってください。

1.ぬれた手でセンサを本体に取り付けしないでください。



2.人の尿や基準液以外のもの(動物の尿や薬品、飲み物など)をセンサにかけないでください。



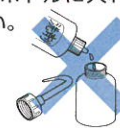
3.お湯や洗剤、便器内の水や汚れた水でセンサを洗浄しないでください。



4.本体からセンサをはずして水につけたり、丸洗いしないでください。



5.水道水以外(洗剤や消臭剤など市販の薬液やこれらを混ぜた水)は洗浄ボトルに入れないでください。

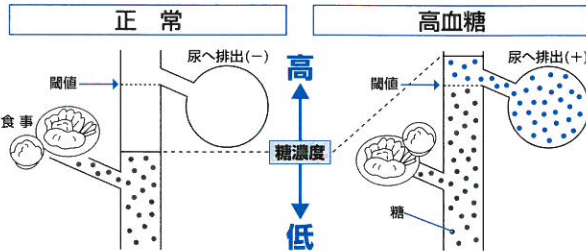


6.有効期限が切れてから開封・開栓したセンサ、保存液、基準液を使用しないでください。



1. 尿糖とは

尿は腎臓で作られます。腎臓は血液のろ過場所であり、血液中の不要な老廃物を尿として排泄しています。血液中に含まれる余分な糖もまた尿の中に排泄されます。この排泄された尿中の糖を尿糖といいます。糖は体にとって大切なエネルギー源ですので、血液中に常に一定の濃度範囲(血糖値)で含まれるように調節されています。腎臓にはこの糖濃度を維持するために、ある血糖値までは、糖が漏れ出ないようにする機能があります。この血糖値の上限値を一般的に「閾値」と呼び、正常人ではほぼ170mg/dlとされています。この濃度を超える血液中の糖分が余分なもので、尿中に排泄されます。



2. 尿糖値と血糖値のちがい

尿糖値と血糖値は異なります。尿糖値は、糖尿病を知る上で一つの目安になるものですが、血糖値そのものとは値もその変化のしかたも異なります。

- 血糖値とは血液中のブドウ糖の濃度のことです。
- 尿糖値とは血糖値が「閾値」を超えた場合にふれ出る過剰な糖が、どれだけ尿に含まれているかをあらわした濃度のことです。

従って尿糖値はそのときの尿の量によっても異なり、血糖値とも異なってくるわけです。

3. 1日の尿糖値と血糖値の関係

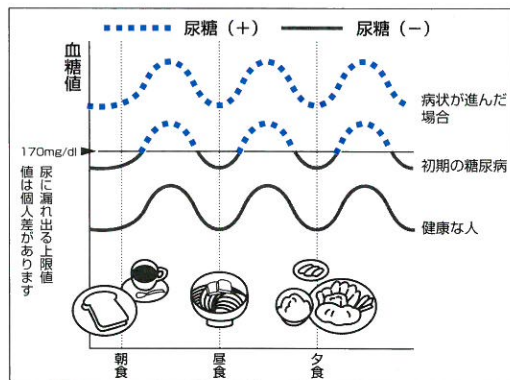
血糖値は1日の中で、食事をとると上昇し、食後1時間ぐらいで最大になり、空腹になると下がってくるという、日常生活リズム(食事など)にともなった変化を示しています。

尿糖値の変化のしかた

健康な人: 通常の生活では、食後の血糖値が最大になった場合でも「閾値」を超えることがなく、尿糖が検出されることは滅多にありません。ただし、食べ過ぎ、飲み過ぎの後や、体調が悪いときなどは一時的に尿糖が検出されることがあります。

初期の糖尿病: 空腹時は検出されませんが、食後血糖値が上がってきたときに検出されることがあります。

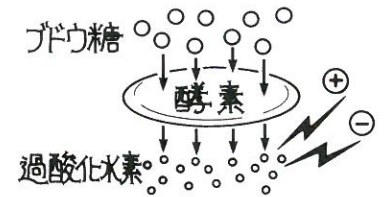
病状が進んだ場合: 常に血糖値は閾値を超え、尿糖が検出されます。



以上のように、各進行状況によって漏れ出る様子が異なるため、家庭での定期的な尿糖値の測定は、糖尿病の早期発見に有効であり、さらに早期治療へとつながります。(但しあくまでも目安であり、尿糖値の測定結果をもとに医師から指示された治療内容の変更は行わないでください。)

1. バイオ尿糖チェッカでの尿糖検出のしくみ

バイオ尿糖チェッカは、「酵素」を用いて尿糖を検出するバイオセンシング技術を用いています。この「酵素」の働きで尿中の糖(ブドウ糖)を分解して、過酸化水素を発生、これが電気信号として本体に伝えられ、糖濃度として表示されます。



2. 酵素の性質

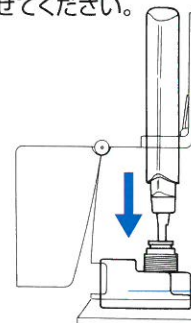
酵素は特定の物質に作用します。本器で使われている酵素は糖(ブドウ糖)のみに作用するため、尿中の他の成分の影響を受けずに正しく糖を測定できます。またこの酵素は以下のような性質をもっていますので、ご使用にあたっては注意が必要です。

1 乾燥状態では働かない。

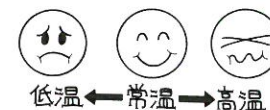
2 極端な低温、高温によわい。

3 汚れによわい。

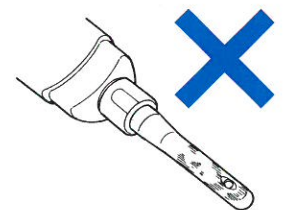
初めてご使用になる時はセンサを専用の保存液にしめらせてください。



使用・保管の際は指定された温度条件でご使用ください。



尿を測定した後はきれいな水道水で正しく洗浄し、専用の保存液のなかで保管してください。



7 商品の特長

糖尿病の早期発見には日々のこまめな尿糖値の測定が有効です。オムロンバイオ尿糖チェッカHER-111はより手軽なご家庭での尿糖値の測定を可能にするために開発されたものであり、つぎのような特長があります。

1 尿をかけるだけの簡単測定

採尿カップにとらずに、直接、尿をセンサにかけて測定できます。

2 約6秒の高速測定

尿をかけてから約6秒で測定が終了、すぐに結果がわかります。

3 デジタル表示で見やすい測定結果

本体の液晶表示部に、6段階の目安濃度と3段階の判定結果が表示されます。

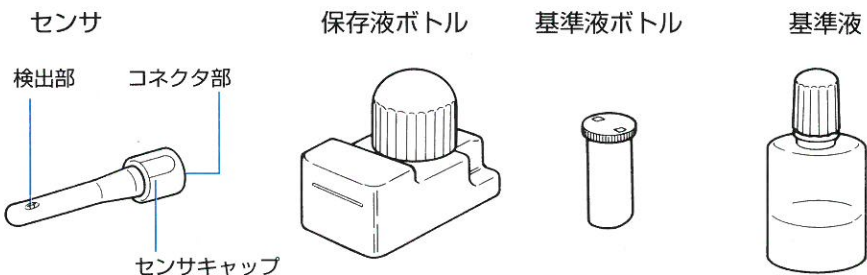
4 くりかえし使用可能

本器の専用センサは、1日2回の測定で90日間使用できます。試験紙のように毎回交換する必要はありません。

5 尿中の糖(ブドウ糖)のみに反応

ビタミンC(アスコルビン酸)などの影響をほとんど受けずに糖(ブドウ糖)濃度を測定できます。

別売品センサセット



8 商品の構成(各部の名称)

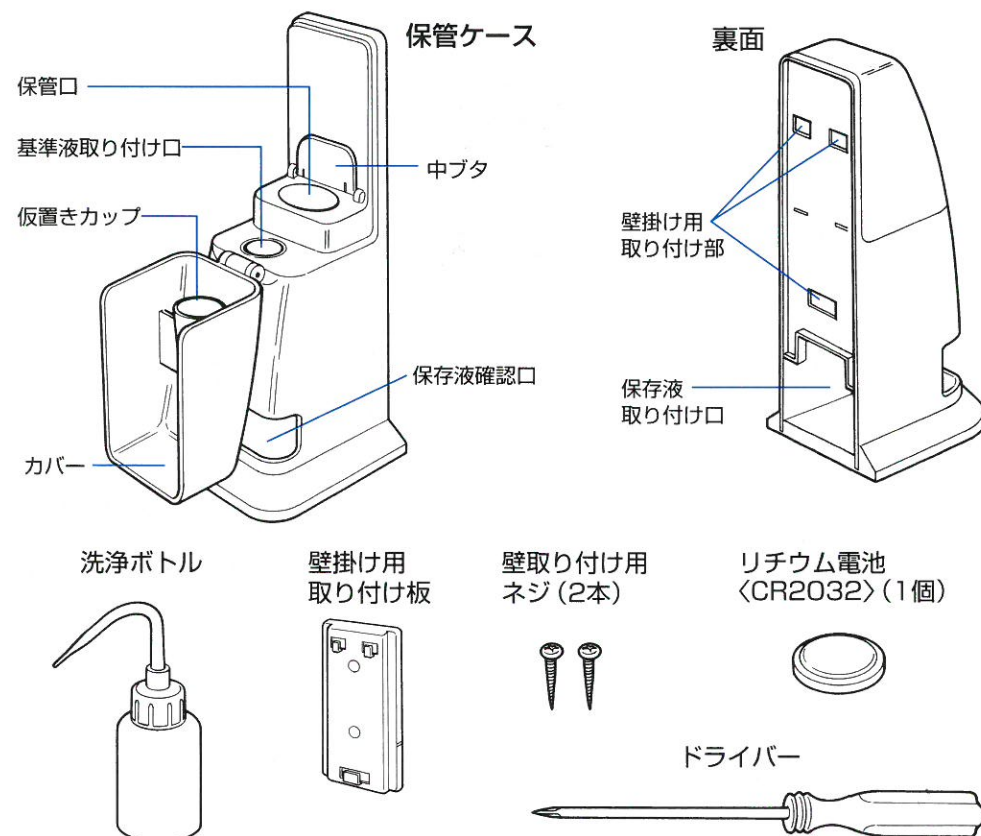
8

商品をご確認ください。

本体



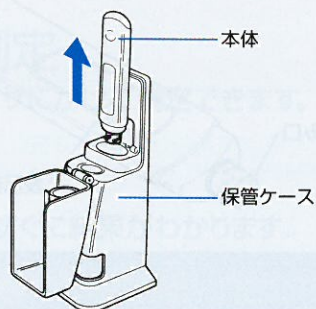
付属品



保管ケースの組み立て

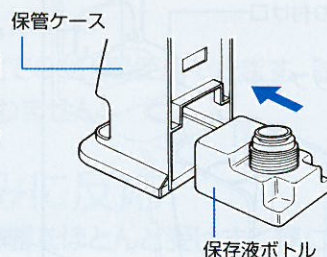
1 本体を取り出します。

保管ケースのカバーをあけて本体を取り出してください。



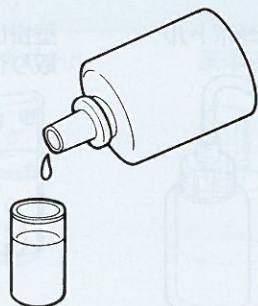
2 保存液を取り付けます。

専用センサセットHER-111-SENSOR(別売品)に付属の保存液ボトルのキャップをはずし、保管ケースの保存液取り付け口に、正しい向きに取り付けてください。



3 基準液を基準液ボトルに入れます。

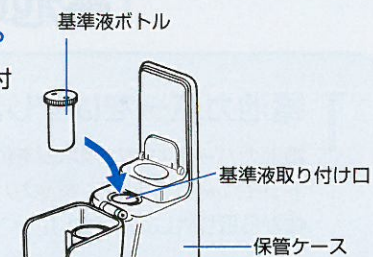
専用センサセット(別売品)に付属の基準液を基準液ボトルに入れてください。
(基準液ボトル2/3程度まで)
基準液ボトルのキャップをつけ直してください。



4 基準液ボトルを取り付けます。

基準液ボトルは、保管ケースの基準液取り付け口に入れてください。

基準液は、センサチェックに使用します。
(参照ページP17)



5 洗浄ボトルに水道水を入れます。

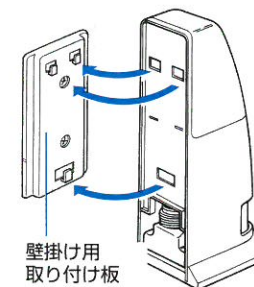
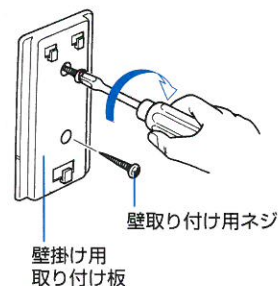
付属の洗浄ボトルに水道水を入れてください。
尿測定後のセンサの洗浄に使用します。



保管ケースを壁にかける場合

①壁かけ用取り付け板を付属のネジ2本で壁面にしっかり取り付けてください。

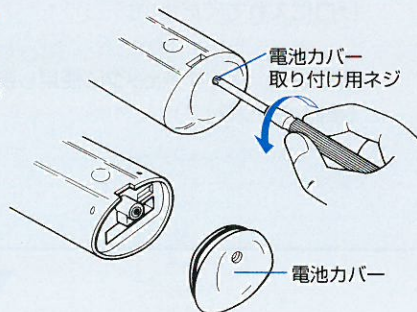
②保管ケース側面と壁かけ用取り付け板の側面の合いマークを合わせ保管ケースを下へおろしてください。



電池の取り付け

1 電池カバーをはずします。

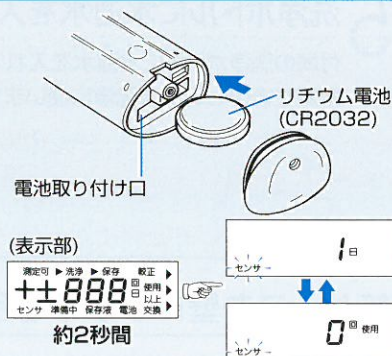
電池カバー取り付け用ネジを付属の＋ドライバーではずして、電池カバーを本体から取り外してください。



2 電池を入れます。

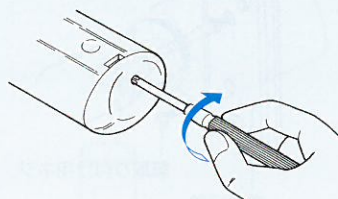
本体の電池取り付け口に付属のリチウム電池(CR2032)を⊕⊖の向きを正しく入れてください。

全点灯した後、“センサ”が点滅すると同時に使用日数と測定回数が交互に点灯します。



3 電池カバーを取り付けます。

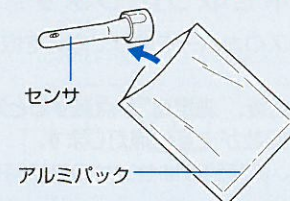
電池カバーを本体に取り付け、ネジで固定してください。



センサの取り付け

1 センサを取り出します。

専用センサセットHER-111-SENSOR(別売品)のアルミバックを開封しセンサを取り出してください。



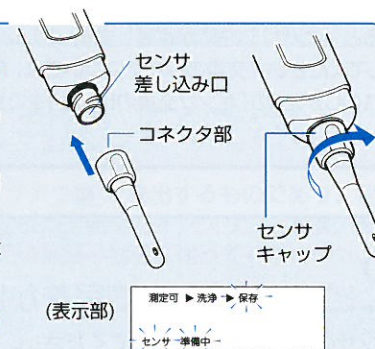
2 センサを本体に取り付けます。

① センサのコネクタ部を本体のセンサ差し込み口に差し込んでください。

(センサ検出部を本体の表示部と同じ向きにしてください)

② センサキャップを時計方向にまわして本体にしっかりと取り付けてください。

表示部に“保存”と“センサ”準備中”が点滅します。

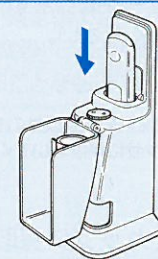


3 保管ケースに収納します。

保管ケースの保管口に本体を差し込んでください。

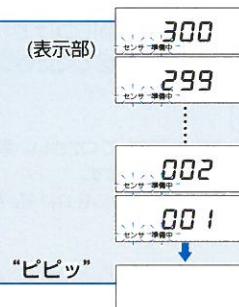
(ビビビ・・・とブザーがなった場合)

本体を一度取り出して、再度保管口に差し込んでください。センサの検出部に気泡が付着したりして正しくしめらなかった可能性があります。



4 測定準備のため、5分間(300秒)待ちます。

本体が正しく収納されると、表示部に待ち時間が表示されます。“ビビッ”とブザーが鳴り全ての表示が消えると測定準備が終了し、測定できるようになります。



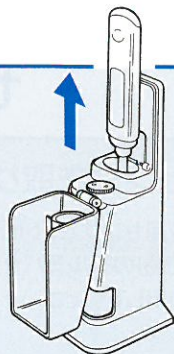
1 本体を取り出します。

保管ケースのカバーを開けて本体を取り出してください。

全点灯した後、“測定可”が点滅すると同時に使用日数と測定回数が交互に点灯します。

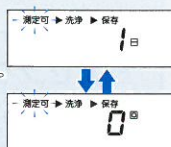
使用日数、測定回数はセンサの交換時期の目安にしてください。

使用日数が「85日」もしくは、測定回数が「170回」を過ぎると“センサ”“交換”が点滅します。新しいセンサと交換してください。交換のしかたについては、P16「お手入れのしかた」の「センサ交換のしかた」をご覧ください。



(表示部)

測定可 ▶ 洗浄 ▶ 保存 ▶ 校正
日 使用
センサ 準備中 保存液 電池 交換



2 ピピッと鳴るまで尿をかけます。

センサの検出部に尿をかけてください。

尿中の糖(ブドウ糖)を検出すると数秒で“ピピッ”とブザーが鳴ります。ブザーが鳴るまで尿をかけ続けてください。

△注意

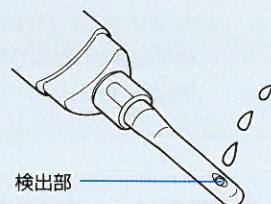
- 人の尿や基準液以外のもの(動物の尿や薬品、飲み物など)をセンサにかけないでください。

(尿をカップに採取して測定する場合)

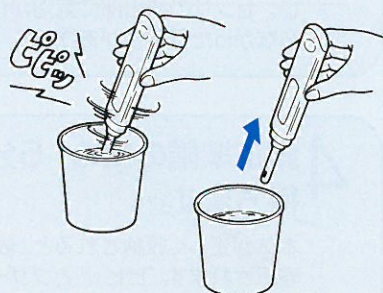
本器は、カップに採尿して測定することもできます。センサの検出部を尿中につけて“ピピッ”とブザーが鳴るまで尿をかき混ぜてください。

△注意

- 必ず採尿直後に測定してください。尿の温度が下がり、正しい測定ができなくなります。
- センサの検出部を尿中にをつけて、かきまぜながら測定してください。



“ピピッ”



尿をかきまぜて“ピピッ”と鳴ったら尿からセンサを引き上げる

3 測定結果を見ます。

“ピーッ”とブザーが鳴ると同時に表示部に測定結果が表示されます。

(尿糖を検出し、“ピピッ”とブザーが鳴って約3秒後)

本体を仮置きカップに置いてセンサを洗浄する準備をしてください。

(仮置きカップは、取り外して洗浄できます。)

(表示部)

“洗浄”点滅
(次の手順)

判定矢印 判定



測定結果は下表のように判定してください。

△警告 バイオ尿糖チェッカHER-111は尿中の糖(ブドウ糖)を検出するものであり、病気の専門的な診断を行うものではありません。本器の測定結果でインスリン注射量、経口剤などの処方調節をしないでください。必ず専門の医師の指導に従ってください。

表示部	濃度(mg/dl)	判定	説明
測定可 ▶ 洗浄 ▶ 保存 - 0 ▶	5~49	今回の検査ではほとんど尿糖は検出されませんでした。	採尿の時間(食事の前後)や薬剤の服用などが検査値に影響することがあります。食後(1~2時間)にもう一度検査することをおすすめします。
測定可 ▶ 洗浄 ▶ 保存 ± 50 ▶	50~99		
測定可 ▶ 洗浄 ▶ 保存 + 100 ▶	100~149	今回の検査では少し尿糖が検出されました。	食後(1~2時間)にもう一度検査し、二つの検査の記録を持って、医師にご相談ください。
測定可 ▶ 洗浄 ▶ 保存 ++ 150 ▶	150~249	今回の検査では多めの尿糖が検出されました。	
測定可 ▶ 洗浄 ▶ 保存 ++ 250 ▶	250~499		
測定可 ▶ 洗浄 ▶ 保存 ++ 500 以上 ▶	500以上		

※測定範囲は5~500mg/dlです。

4 洗浄をします。

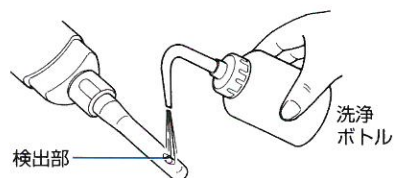
センサは使用後以下の手順に従って、30秒程度洗浄し、“保存”の表示に切り替わってから、保管ケースに収納してください。

“洗浄”→“保存”の表示切り替え時間は、尿中成分（個人差、飲食内容など）で異なります。本器は、洗浄効果を自動的に認識し、表示を“洗浄”から“保存”に切り替えます。この時間は30秒程度ですが、尿中成分によっては、自動認識に時間がかかる場合がありますが、故障ではありません。

1) センサの検出部を30秒程度洗浄してください。

センサ全体（表や裏など）を洗浄し尿を洗いながしてください。

※30秒以内に表示が切り替わることがありますが、全体の洗浄をしてから保存してください。

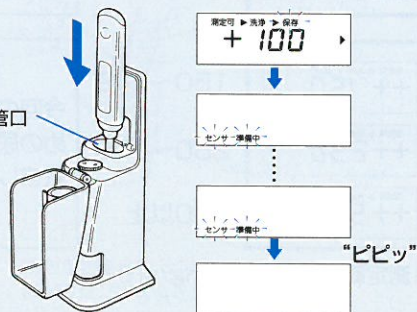


2) “洗浄”が“保存”に切り替わるまでお待ちください。



5 保管ケースに収納します。

表示部に“保存”が点滅したら、保管ケースの中ブタを開けて保管口に本体を差し込んでください。測定結果が消えて“センサ準備中”が点滅します。続けて測定する場合は、“ビビッ”とブザーが鳴り表示部の“センサ準備中”の点滅が消えるまで（最長約10分間）お待ちください。



本器に使用する「センサ」、「保存液」、「基準液」は消耗品です。以下のような場合は、新しいセンサセットHER-111-SENSOR(別売品)と交換してください。

- 本体表示部に、“センサ”“交換”が表示したとき
 - 誤ってセンサを傷つけたり、破損したとき
- 以下の手順に従ってセンサを交換してください。

センサ交換のかた

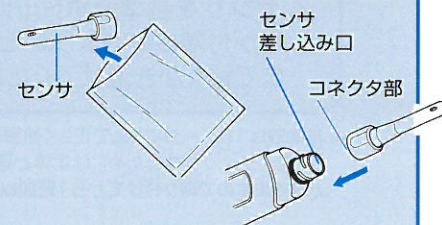
1 センサをはずします。

- ① 本体及び使用済みのセンサについた水分を乾いた布などで拭き取ってください。
- ② センサキャップを反時計方向にまわして、本体からセンサを引き抜いてください。



2 新しいセンサを取り付けます。

新しいセンサセットHER-111-SENSOR(別売品)に付属のセンサを取り付けてください。センサの取り付け方は、P12をご覧ください。



△注意 センサを交換したときは、保存液、基準液も新しいものとボトルごと交換してください。

※使用日数と測定回数がリセットされない場合：いったんセンサを本体からはずし、日数/回数リセットスイッチを2秒以上押します。その後、再度センサを取り付けて使用してください。

電池交換のかた

電池の寿命は、1日2回の測定で約1年です。寿命が近づくと、本体表示部に“電池交換”が点滅しお知らせします。電池を新しいものと交換してください。電池の交換のかたは、P11をご覧ください。

- △お願い**
- ぬれた手で電池や電池カバーを持たないでください。
 - 指定された電池(リチウム電池CR2032)以外の電池を使用しないでください。

清掃のかた

本体や保管ケースの汚れは水で湿らせた布で拭いた後、乾いた布でからぶきしてください。

- △お願い**
- 本体を水につけたり、丸洗いしないでください。
 - 本体、センサ、保管ケースをアルコール、ベンジン、シンナーなどで拭かないでください。
 - センサの検出部を指、綿棒、ティッシュなどで直接拭かないでください。

仮置きカップの清掃について

保管ケースのカバーについている仮置きカップは、取り外すことができます。仮置きカップをご使用になった後は、仮置きカップを引き抜き、水(水道水)で洗浄してください。乾いた布で水分を拭き取った後、カバーに取り付けてください。

尿中の糖が正しく測定されているかどうかを知りたい時はチェックを行ってください。チェックは2週間に1回程度を推奨します。

センサチェックのしかた

1. 本体を取り出します。
測定可の点滅を確認してください。

測定可 ▶ 洗浄 ▶ 保存

2. センサを基準液ボトルにつけ検出部に気泡が付着しないように“ピピッ”と音が鳴るまで軽くかき混ぜてください。



※基準液は10ページに従って正しく設置してください。
(正確にチェックするためには本体と基準液を同じ温度に保つ必要がありますので取り付けてから1時間以上放置してください。)

3. 表示部を確認してください。

A. 表示が±50、+100、++150のいずれかの場合

B. 表示が-0、++250、++500、または測定可のままのいずれかの場合

正しく測定できます。

センサを通常の洗浄方法に従い洗浄して、
本体を保管ケースに収納してください。

検出部に気泡がついていた可能性があります。再度、手順1から繰り返してください。さらに表示が「B」の場合、センサが故障している恐れがあります。新しいセンサと交換するか、もしくは24ページに記載のオムロン健康相談室へご相談ください。

引き続きご使用できます。

ご使用中に異常が生じた場合には、まず次の点をお調べください。

こんなとき

点検するところ

対処のしかた

電池を入れても何も表示しない。

電池の向きが間違っていないですか。

電池カバーがはずれていませんか。

電池の+の向きを正しく入れ直してください。
(参照ページP11)

電池カバーを本体に取り付けてネジで固定してください。
(参照ページP11)

電池交換が点滅している。

電池が消耗していませんか。

電池を交換してください。
(参照ページP11)

本体を保管ケースから取り出しても何も表示しない。

使用日数が85日もしくは測定回数が170回を過ぎていませんか。

使用日数85日、測定回数170回のいずれかを過ぎていればセンサの寿命が近づいています。センサを新しいものと交換してください。(参照ページP16)

“センサ”“交換”が点滅している。

使用日数が90日もしくは測定回数が180回が点灯していませんか。

センサを新しいものと交換してください。(参照ページP16)

“センサ”“交換”が点灯している。

本体を保管ケースから取り出して長時間放置(60分以上)していませんか。

(センサを取り付けた)本体を保管ケースから取り出して、長時間放置(60分以上)するとそのセンサは使用できなくなります。センサを新しいものと交換してください。(参照ページP16)

ご使用中に異常が生じた場合には、まず次の点をお調べください。

こんなとき	点検するところ	対処のしかた
“保存液”“交換”が点灯している。	測定後、センサをよく洗浄せずに保管ケースに収納しませんでしたか。	保存液が汚れています。保存液を新しいものと交換してください。(参照ページP9)
測定しても、ブザーが鳴らずに結果を表示しない。	“センサ準備中”が点滅していませんか。	センサをいったん洗浄して保管ケースに収納してください。本体を保管ケースから取り出した時に“測定可”の点滅をご確認の上、測定してください。(参照ページP15)
	“センサ”“交換”が点灯していませんか。	新しいセンサに交換してください。(参照ページP16)
	(カップに採取した場合)冷えた尿を使用していないか。	採尿直後の尿をご使用ください。(参照ページP13)
	使用(測定)場所の温度が極端に低くないですか。	5℃～40℃の場所で使用してください。(参照ページP6)
	尿中の糖が極端に少ない(5mg/dl未満)場合は検出できない場合があります。10秒以上かけ続けてもブザーが鳴らず、表示部に“測定可”が点滅したままの場合は、センサをいったん洗浄して、保管ケースに収納してください。(参照ページP15)	
新しいセンサに交換しても、使用日数と測定回数がリセットされない。	センサを本体につける前に、センサの検出部が水や保存液でぬれていませんか。	いったんセンサを本体からはずし、日数/回数リセットスイッチを2秒以上押すと、使用日数、測定回数がリセットされます。再度センサを取り付けてご使用ください。

※上記の方法でも、測定が正常にできない場合は内部機構にさわらずお買い上げの販売店または24ページに記載のオムロン健康相談室へご相談ください。

本器にはセンサの故障を防ぐために保管ケースから取り出して放置したり、測定後に洗浄しなかった場合は、下表のようにブザーと表示でお知らせする機能があります。

保管ケースから取り出した後、放置した場合		
2分30秒経過	“ピピッ…ピピッ…”とブザーが鳴ります。	(測定する時) すみやかに尿をかけてください。 (測定しない時) 本体を保管ケースに収納してください。
3分以上経過	ブザーが鳴り続けるとともに表示部の“測定可”の点滅が“保存”の点滅にかわります(測定中止とみなします)。	(測定は中止して) 尿をかけずに本体を保管ケースに収納してください。
60分以上経過	ブザーが鳴り続けるとともに表示部に“センサ”“交換”が点灯して、そのセンサは使用できなくなります。	新しいセンサと交換してください。
尿をかけた後センサを洗浄せずに放置した場合		
3分以上経過	“ピピッ…ピピッ…”とブザーが鳴ります。	すぐに水道水でセンサを洗浄してください。
30分以上経過	ブザーが鳴り続けるとともに表示部に“センサ”“交換”が点灯して、そのセンサは使用できなくなります。	新しいセンサと交換してください。
洗浄後保管ケースに収納せずに放置した場合		
3分以上経過	“ピピッ…ピピッ…”とブザーが鳴ります。	すぐに本体を保管ケースに収納してください。
60分以上経過	ブザーが鳴り続けるとともに表示部に“センサ”“交換”が点灯して、そのセンサは使用できなくなります。	新しいセンサと交換してください。
尿をかけた後センサを洗浄せずに保管ケースに収納した場合		
収納した時	“ピピピピ…”とブザーが鳴ります(最長20秒)。	センサを洗浄して新しい保存液とボトルごと交換してください。
収納したまま、次回に測定をする時	“測定可”と同時に“保存液交換”が点滅します。	新しい保存液とボトルごと交換してください。

本器のブザーの意味は以下のようになっています。

ブザー	表示部	ブザーの意味
ピピッ	(センサを取付けたあと) 001 センサ準備中	
	(測定したあと) センサ準備中	測定できる状態になったことをお知らせします。
	測定可 ▶ 洗浄 ▶ 保存 ---	測定中、尿をかけ終わってもよいことを知らせします。
ピー	(判定結果が+100の場合) 測定可 ▶ 洗浄 ▶ 保存 +100 ▶	測定が終了したことをお知らせします。
ピッ	測定可 ▶ 洗浄 ▶ 保存 +100 ▶	洗浄を終えて保管ケースに収納していただくことをお知らせします。
	測定可 ▶ 洗浄 ▶ 保存 1日 ▶ 測定可 ▶ 洗浄 ▶ 保存 0回 使用	センサが本体についていない状態で日数/回数リセットスイッチを2秒以上押した場合に使用日数・回数がリセットできたことをお知らせします。

以下のようなブザーが鳴っている場合は対処のしかたに従ってください。

ブザー	表示部	ブザーの意味と対処のしかた
ビビッ...ビビッ...	測定可 ▶ 洗浄 ▶ 保存 12日 使用 ↑ ↓ 測定可 ▶ 洗浄 ▶ 保存 25回 使用	“測定可”が点滅している状態で放置(2分30秒~3分)されていることをお知らせします。すみやかに尿をかけて測定するか、測定をいったん止めて保管ケースに収納してください。3分以上放置された場合はただちに保管ケースに収納してください。
	測定可 ▶ 洗浄 ▶ 保存 +100 ▶	“洗浄”が点滅している状態で放置(3分以上)されていることをお知らせします。ただちにセンサを洗浄して、保管ケースに収納してください。
	測定可 ▶ 洗浄 ▶ 保存 +100 ▶	“保存”が点滅している状態で放置(3分以上)されていることをお知らせします。ただちに保管ケースに収納してください。
ビビビビ...	測定可 ▶ 洗浄 ▶ 保存 センサ準備中	新しいセンサを本体につけて保管ケースに収納した時に保存液が備え付けられていないことをお知らせします。保存液を保管ケースに取り付けた後、本体を保管ケースに収納してください。
	測定可 ▶ 洗浄 ▶ 保存 - 保存液 - 交換 -	測定した後、洗浄せずに保管ケースに収納されたことをお知らせします。センサを洗浄して、新しい保存液とボトルごと交換してください。
	測定可 ▶ 洗浄 ▶ 保存 +100 ▶	“保存”が点滅している時に尿をかけたり基準液につけたことをお知らせします。(表示は“洗浄”の点滅に変わります)。センサを洗浄して保管ケースに収納してください。

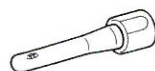
別売品は、お買い上げの販売店
またはオムロンヘルシーモア
(株)TEL:0120-355-066
にてご購入ください。

(表示価格には消費税は含まれていません。)

専用センサセット／HER-111 SENSOR

¥6,000

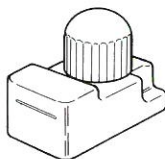
●センサ



●基準液



●保存液ボトル



●基準液ボトル



●保存液／HER-111-01 ¥700

●基準液(基準液ボトル付)／HER-111-02 ¥600

●仕 様

名 称	オムロンバイオ尿糖チェッカ
形 式	HER-111
測 定 項 目	尿中の糖(ブドウ糖)
使用 センサ	オムロンバイオ尿糖チェッカ HER-111専用センサHER-111-SENSOR
判 定 表 示	判定3段階表示(目安濃度範囲6段階)
測 定 範 囲	5~500mg/dl
測 定 時 間	約6秒
電 源	リチウム電池(CR2032) 1個
電 池 寿 命	約1年(1日2回測定した場合)
使 用 環 境	温度5~40℃ 湿度30~85%
外 形 寸 法	(本体のみ) 幅33×高さ20×長さ135mm (本体+センサ) 幅33×高さ20×長さ188mm (保管ケース) 幅66×高さ210×長さ81mm(床置時)
質 量	(本体ケース)約47g (本体+センサ)約50g(電池別)
医療用具承認番号	8B第182号

※お断りなく仕様を変更する場合がありますのでご了承ください。

お買い上げの販売店またはオムロン健康相談室にお問い合わせください。



商品の使い方に関するお問い合わせは、

オムロン健康相談室がお答えします。

全国どこからでも
フリーダイヤル **0120-30-6606**

むろん オムロン

ダイヤルは正確に

受付時間/10:00~12:00/13:00~16:00(月~金)

修理のお問い合わせは

お買い上げの販売店またはオムロンフィールドエンジニアリング(株)までお問い合わせください。品質保証書の記載内容により修理をさせていただきます。

北海道地区の方	オムロンフィールドエンジニアリング北海道(株) 〒060-0003 札幌市中央区北3条西1-1 サンメモリア6階	TEL011(281)5125
東北地区の方	オムロンフィールドエンジニアリング(株)仙台支店 〒980-0802 仙台市青葉区二丁目18-26 二丁目OAビル3階	TEL022(261)7054
関東地区の方	オムロンフィールドエンジニアリング(株)東京第1支店 〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-19-15 ウノサウ東急ビル2階 オムロンフィールドエンジニアリング(株)東京第2支店 〒101-0035 千代田区神田紺屋町8 アセンド神田紺屋町ビル7階 オムロンフィールドエンジニアリング(株)北関東支店 〒336-0007 埼玉県浦和市仲町1-14-8 三井生命浦和ビル2階 オムロンフィールドエンジニアリング(株)横浜テクノセンタ 〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町2-21-8 第一安田ビル2階	TEL03(3448)8104 TEL03(5296)1760 TEL048(833)7911 TEL045(312)1923
東海地区の方	オムロンフィールドエンジニアリング(株)名古屋支店 〒460-0002 名古屋市中区丸の内3-22-21 安田火災名古屋ビル6階 オムロンフィールドエンジニアリング(株)静岡テクノセンタ 〒420-0859 静岡市栄町4-10 静岡栄町ビル2階	TEL052(962)3284 TEL054(254)3718
北陸地区の方	オムロンフィールドエンジニアリング(株)金沢支店 〒920-0025 金沢市駅西本町1-14-29 サン金沢ビル1階	TEL0762(61)5467
関西地区の方	オムロンフィールドエンジニアリング(株)大阪第1支店 〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-9 古河大阪ビル西館1階 オムロンフィールドエンジニアリング(株)京都支店 〒604-8141 京都市中京区錦薬師通高倉西入ル泉正寺町334 日昇ビル1階 オムロンフィールドエンジニアリング(株)神戸テクノセンタ 〒651-0088 神戸市中央区小野柄通3-2-22 富士火災神戸ビル9階	TEL06(348)1814 TEL075(255)9909 TEL078(242)8268
中国地区の方	オムロンフィールドエンジニアリング(株)広島支店 〒730-0016 広島市中区鞆町13-14 新広島ビル5階	TEL082(227)1573
九州地区の方	オムロンフィールドエンジニアリング九州(株) 〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2-5-28 博多倍成ビル3階 オムロンフィールドエンジニアリング九州(株)鹿児島支店 〒890-0064 鹿児島市鴨池新町5-6 鹿児島県プロバングス会館4階	TEL092(451)6837 TEL099(252)7674

※所在地・電話番号を予告なく変更することがありますので、ご了承ください。

25 保証規定／品質保証書

保証規定

- 1.取扱説明書にしたがった正常な使用状態で故障した場合には、無償修理いたします。
- 2.無償修理期間内に故障して修理を受ける場合は、商品に本書を添えてお買い上げの販売店、オムロン(株)の支店またはオムロンフィールドエンジニアリング(株)のネットワークに依頼または送付してください。なお、送付の場合はオムロン(株)の支店またはオムロンフィールドエンジニアリング(株)までの送料の負担をお願いします。
- 3.無償修理期間内でも次の場合には有償修理になります。
 - (イ) 使用上の誤りおよび不当な修理や改造による故障および損傷。
 - (ロ) お買い上げ後の落下などによる故障および損傷。
 - (ハ) 火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、公害や電源の異常電圧による故障および損害。
 - (ニ) 本書の提示がない場合。
 - (ホ) 本書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名の記入のない場合、あるいは字句を書き換えられた場合。
 - (ヘ) 消耗部品。
 - (ト) 故障の原因が本製品以外に起因する場合。
- 4.本書は再発行いたしませんので紛失しないよう大切に保管してください。
- 5.この保証書は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無償修理をお約束するものです。したがってこの保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

品質保証書

このたびは、オムロン健康機器を、お買い求めいただきありがとうございます。本機は厳重な検査を行ない高品質を確保しております。しかし通常のご使用において万一、不具合が発生したときは、保証規定によりお買い上げ後、一年間は無償修理いたします。

※本機の保証は、日本国内での使用の場合に限ります。
This warranty is valid only in Japan.

※以下につきましては、必ず販売店にて、記入捺印していただください。

品 名 オムロンバイオ尿酸チェッカ

形 式 HER-111

ご芳名

ご住所

Tel. ()

お買い上げ店名

住所

Tel. ()

お買い上げ年月日 年 月 日

発売元

オムロン株式会社 健康統轄事業部

〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-4-10 TEL03(3436)7092





オムロン株式会社 健康統轄事業部

〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-4-10 TEL03(3436)7092

●札幌011(271)7826 ●仙台022(265)2734 ●大宮048(645)8111 ●東京03(3436)7092 ●横浜045(411)7216 ●名古屋052(561)0621
●京都075(223)1135 ●大阪06(282)2572 ●神戸078(361)1199 ●広島082(247)0260 ●高松0878(22)8521 ●福岡092(414)3206

1601151-1E